

## 都市生活地域復興センター 準備会だより NO.3

第3号

発行日：1996.7.30  
都市生活地域復興センター準備会

西宮市津門西口町7-3

TEL 0798-36-6679

FAX 0798-36-5114

### 公園にいますだ7世帯15人

神戸市須磨区下中島公園

文：泉北生協 佐藤啓子

1996年1月31日、朝日新聞に復興ネットワークという欄があり、神戸市須磨区の下中島公園というところに「テント村なお10世帯。水・食料の支援希望」の見出しが目にとまりました。読み終えて、何かできることがありそうな気がして、すぐに切り取り、何部かコピーをしました。

2年前から泉北ニュータウンの中にある農家とお米の産直をしていたので、お米ならなんとかかなと思ひ、数人の友人にコピーを渡して話をしたところ、協力してくれました。

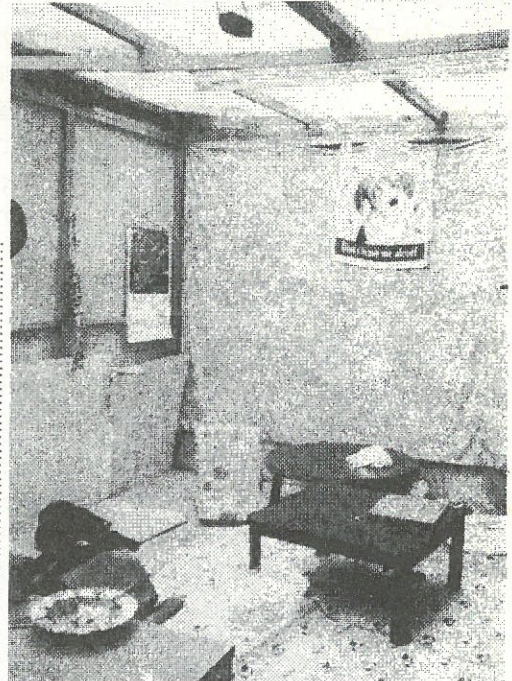
送るよりは直接会ってもっと具体的なことがわかればと思ひながら、時間はどんどん過ぎていきました。3月20日にやっと夫の都合が付き、ふたりでお米の生産者の所に寄り、畑にあった白菜を安くわけてもらひ、お米や我が家にあった食品などを持って訪ねましたが、事前に連絡がとれないまま行ったため、世話役の金川さんにも自治会長の宇野さんにも会えず、1時間ほど時間をつぶして再び行くと、金川さんの親類の方がいらしたので、荷物をこ

とづけて、連絡先を書いて帰ってきました。

下中島公園は須磨区役所のすぐ横にあり、その中に北と南の二つの自治会があって、さらに公園内のグラウンドにはいわゆる地域型（高齢者・障害者用）の二階建て仮設住宅がありました。南のブロックは震災当時若い女性が多く、支援をためらい、一年が過ぎどうにもならない所まできて、新聞を通じて支援を呼びかけたのだそうです。

お礼の電話があったとき、私は不在で、夫が40分位話をしました。それは大体こんな内容でした。

- ・一日10キロ近くのお米がいる。
- ・公園の水を飲んでほとんどの人がおなかをこわし、飲むのが恐くなったため、ペットボトルの水がたくさんいる。
- ・婚礼家具もすべて焼けてしまった。
- ・60歳位の男性で障害（仕事中に腕を切断）のある方の世話をしている。
- ・電気代・フロ（シャワー用）の燃料代が負担になっている。



食堂の内部

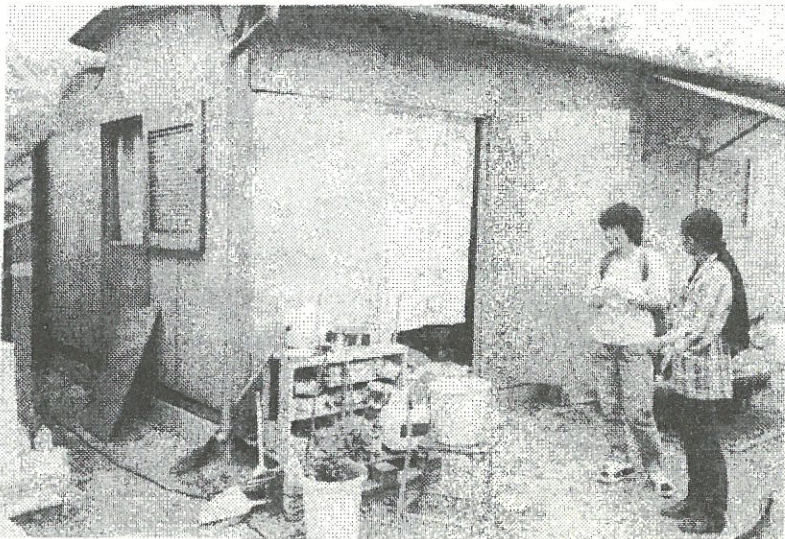
・言いづらけれど、お金の援助が一番。

それからしばらくして、5月13日にはじめて金川さんと電話で連絡を取り、もう一度伺いたいと伝えましたが先方の都合が悪く、現状についての話だけをしました。この間、泉北生協のボランティア会議や友人たちに話をしたところ、「なぜその人たちは仮設に入らないの?」「公園の水が飲めないなんて」「義援金はどう使っているの」などいろいろな疑問が出されました。こうした疑問に対してきちんと答えられるように事実を確認しなければみんなの協力は得られないよ、とアドバイスを受けてのですが、5月13日の電話ではつっこんだ話をする事はできませんでした。

ようやく6月20日に地域復興センターの小松さん、池田さんと私で現地を訪れ、金川さんとおかあさんに会って3時間近く話をする事ができました。その内容をまとめると、

1.仮設は何度か抽選にはずれた。

2.震災直後からこの公園で自衛隊からもらったテントで生活していた。あまりにも住み難くなってきたので、95



## ボランティアが建てたベニヤ合板の「住宅」で生活

## クーラーなし、昼は40度

(表面から続く)年6月から今年2月までコンテナを借りて住んでいた。

3.テントやコンテナは床が低いいため、湿気や寒さで腰痛や冷えに悩まされ、夏は酷暑となる。虫やドブネズミが出るため不衛生。電気は公園内の水銀灯から引いていたので、漏電のために冷蔵庫の中のものが腐ったりして大変だった。

4.今年の2月に大工ボランティアが3棟6部屋の小屋をベニヤ板で造ってくれて電気を引いた。今はそれに住んでいる。コンテナは返却した。

5.コンテナハウスのレンタル料はローンを組んで月々5万円支払っている。既に公園を離れた人の分まで肩代わりせざるを得ない。義援金配分の項目にある住宅助成金(修繕・賃貸)に該当すればコンテナの賃料の支払いに充てることができるのではと何度も区と交渉したが、仮設や公園内の建物は定住するものではないから賃貸にはあてはまらないと言われた。

6.現在、15人の共同生活で長田のケミカル産業関連の震災失業者が多い。障害者の身の回りの世話、炊事洗濯などを金川さん親子が引き受け、他の人たちはバイトや長距離トラックの運転手などをしながら生活費を出しあっている。

7.夏を迎えるにあたって扇風機しかない。蚊が多いが、網戸がないので困っている。

と、まあこんな具合です。

この日は雨模様でしたが、話し込んでいるうちにどしゃぶりとなり窓(木で枠をつくり、プラスチックの波板を打ちつけている)や戸口から雨が吹き込んできました。玄関に脱いでおいた私たちの靴は、ひさしがないためあつという間にびしょぬれになりました。夜は物騒なので暑くてもドアも窓も閉め切って寝ているそうですが、それでも物音や蚊の侵入で熟睡できない状態が続いているそうです。

建物の内部は4.5畳ほどの広さで、押入もなく、部屋の中は入り口以外の3面の壁に沿って服、布団、小物などを置いているだけで、扇風機と小さなテレビ(最近買ったそうです。他の部屋にはありません)以外は家財といえるものはありませんでした。台所は木で枠をつくり、三方をビニールで覆っているだけ、トイレは工事現場にある簡易式のものひとつ、シャワー用の小屋がひとつ、これだけの設備で7世帯15人が生活しています。この日は網戸の取り付けならなんとかかなりそうだといいことで帰りました。

その後、仮設住宅へのひさしの取り付けなどの実績がある尼崎のボランティア団体「マイム・マイム」の協力が得られることになり、7月6日に「マイム・マイム」代表の鈴木さん、池田さん、元現地救援本部スタッフがこの

日は「マイム・マイム」のボランティアとして参加した新倉さん、私で2度目の訪問をし、14日にはマイムのスタッフと本格的な見積もりに行きました。結局この日、女性のための共用部屋に網戸とひさしを取り付けることに決まりました。7月28日にはいよいよ取り付け作業が行われます。

しかし、夏場の暑さ対策としては根本的な解決になっているかどうか、疑問が残ります。仮設住宅には全戸にクーラーが取り付けられていますが、ここにはクーラーがありません。おそらく夏場の日中には室内の気温は40度を優に超えるでしょう。せめて共有部分の食堂だけでもなんとかならないものかと、はがゆい思いをしています。

被災地にたくさんの友人がいたことがきっかけになって、私は泉北生協のボランティアに参加しました。知り合いがいるということでいろいろ動いたわけですが、一方で北海道や東北の災害に対してはなんの行動もしなかったということにあるとき気がつきました。この時から私は関心を持ち続けて、できることをキャッチしていこうと思うようになったのです。

下中島公園で生活している方と似た境遇の方は他にもいます。でもテレビや新聞のニュースからはそういったことはなかなかつかめません。知ることができたところから皆が関心を持つことで、少しでもいい方向に向かえればいいかなあと思います。

みなさんの御協力をお願いします。

## 都市生活地域復興セン

## カンパのお願い！！

り付け工事費用と合わせて

ター準備会では、泉北生協佐藤さんの報告を受けて、現地を何度か訪れ、検討した結果、緊急に網戸を取り付ける必要があると判断し、ボランティアグループ「マイム・マイム」の協力を得て7月28日にひさしと網戸を取り付けました。しかし、網戸の効果は大きいものの、殺人的暑さの根本的な解決にはなっていません。金川さんの娘さんは体調を崩し、現在通院して点滴の治療を受けているところです。

同じ公園内には公費で建てられ

た仮設住宅があり、こちらは全戸にクーラーが取り付けられています。しかし行政は金川さんたちに対しては重い腰を上げようとはしません。暑さは待つてはくれません。いろいろと議論の末、やはり共有スペースだけでもクーラーが必要だろうということになり、関係各方面にあたってところ、中古品2台の提供申し込みがあり、早速この2台を集会室と調理場兼食堂に設置することに決めました。

しかし見積もりによると公園内であるため配線に手間がかかり取

2台分でおおよそ10万円弱の経費が見込まれます。これをまかなうために、みなさんにカンパのお願いをいたします。振込先は下記の銀行口座です。御協力を！

都市生活地域復興センター準備会  
事務局 池田啓一

## カンパ金振込先銀行口座

さくら銀行今津出張所

店番号373

普通預金口座番号3496723

口座名義：救援本部 いしだのりお 石田紀郎